

主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

理 由

被告本人の上告趣意中違憲をいう点の実質は、訴訟法違反の主張に帰し（なお、所論A外四名に対する公判廷外の証人尋問が行われた際、手錠をはめられたまま立ち会わされ、反対尋問を妨げられた旨の事実は、記録上これを認めることができない）、その余は、判例違反をいう点もあるが、その実質は事実誤認、訴訟法違反、量刑不当の主張を出でないものであり、弁護人田中泰岩の上告趣意は、事実誤認の主張に帰するものであつて、いずれも刑訴四〇五条の適法な上告理由にあたらない。

また記録を調べても同四一條を適用すべきものとは認められない。

よつて同四一條、三八六条一項三号、一八一條により裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和三十一年一月一日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	島	保
裁判官	河 村 又	介
裁判官	小 林 俊	三
裁判官	垂 水 克	己